

2024 年度 ミネソタ州立大学マンケート校らとの Writing Group
活動報告書

1. 活動内容

- ・参加大学：ミネソタ州立大学マンケート校・カンタベリー大学・グリフィス大学・大阪医科薬科大学等
- ・実施日程：2024 年 1 月 24 日～4 月 24 日 隔週水曜日 6 回
- ・実施時間：9:00～10:00
- ・実施内容：本企画は、ミネソタ州立大学の Hans 教授によるコーディネートで、12 週間で国際雑誌に論文を投稿することを目指す企画である。年に 2 回（1 セメスター：6 回）開催され、Zoom を用いて隔週 1 回の頻度で論文執筆に向けて進行された。

2. 参加者の感想

2024 年度第 1 回 Writing Group に参加して：博士後期課程 倉橋理香

私は、大阪医科薬科大学大学院 博士後期課程で看護の研究について学んでいます。国際交流委員会の先生方に声をかけていただき、この Writing Group に参加させていただきました。

研究を進め、英語論文を読む機会も増えていく中で、日本と海外での医療の進歩の違いや、医療保険制度の違いによって、海外では、生じる課題が日本とは異なり、それぞれの国で研究として着目されている視点が違うことなどに気づきました。しかし、英語論文をたくさん読んだからといってその課題について理解できるわけではありませんでした。

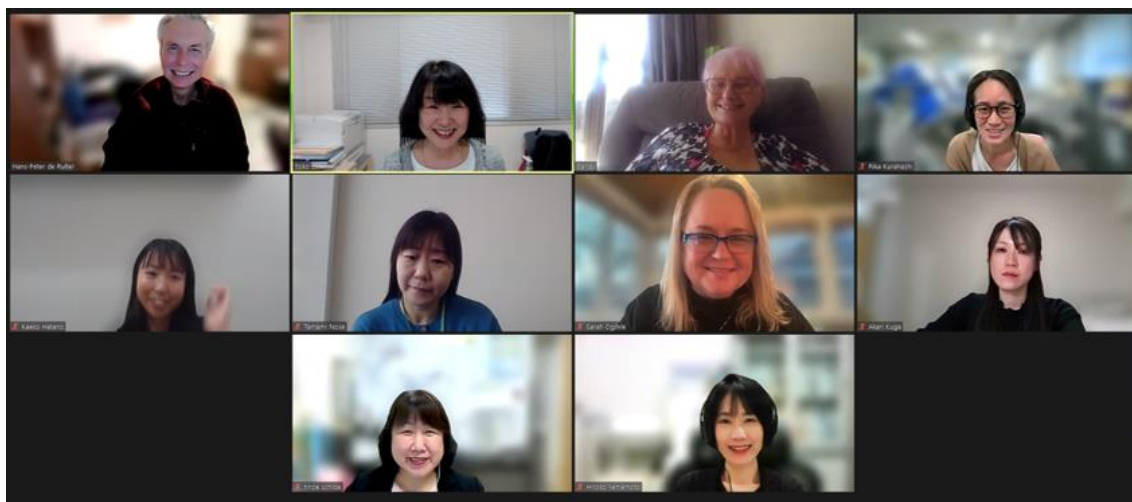
ちょうどそのタイミングで、先生方から「Writing Group」に参加しないかとお声をかけていただきました。英語を聞くこと話すことは得意ではないため、質問をどう表現したら伝わるだろうか、上手く話せるだろうかという不安はありましたが、パワーポイントに質問事項を記載しておき、それを画面共有するかたちで自身の質問を尋ねました。すると、思っている疑問について話すことができることを実感し、予定していた以上にたくさんの建設的な意見をいただくことができました。その中には、今後研究を進めていく上で、大変重要なご意見が含まれており、英語論文を投稿していく際にも考えておかなければならないポイントも教えていただきました。特に、私の研究テーマは、日本の文化の影響を受けている課題であり、これまで私自身もその影響を受けた中でしか考えることができていなかったことに気づくことができました。つまり、英語論文の作成に取り組む際には、そういった文化的背景についても考えておかなければならないこと、グローバルな視点で研究を見ていくことの重要性に気づき、視野が広がる機会となりました。

また、参加されている先生から、同じ分野で研究を行っている先生をご紹介いただきました。その先生が 6 月に国際交流委員会の企画する受け入れプログラムで当大学に来られるとのことで、直接お会いし、ディスカッションをさせていただく機会も設けていただきました。Writing Group に参加したことで、同じ分野の海外の先生ともつながることができました。

さらに、Writing Group は自身の研究に関する相談だけでなく、参加メンバーの方が取り組んでおられる研究にも触れさせていただく機会にもなり、研究の進め方についても学ぶ機会になりました。

この Writing Group に参加させてもらって、いただいたご意見や、グローバルなものの見方は、今

後、研究をすすめていく中で、大変貴重な体験となりました。本企画をコーディネートして下さっている Hans 先生およびミネソタ州立大学マンケート校の先生方、そして、大阪医科薬科大学の関係者様に心より感謝申し上げます。



2024 年度 第 1 回 Writing Group 最終日 (2024.4.24) の写真